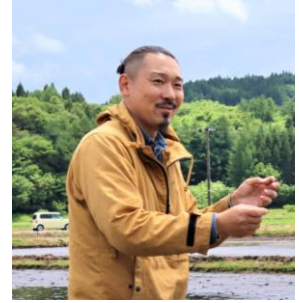




左/今年の田植えの様子  
上/「あったかいね」と泥遊びを楽しむ子どもたち



田植えの説明をする宮村さん

## 田植え体験

×

「農業人」  
宮村 祐貴さん  
みやむらゆうき

厳しい冬を乗り越え、待ち望んだ春がやってきました。雪が溶け畑の土が見えてくると、農家の方々は忙しくなります。稲の

苗を育て、田んぼに通る水路を清掃し、田んぼを耕し整え水を張り、その他水稻以外の作業もこなします。田子町で農業を営む宮村祐貴さんもそのうちの1人です。

宮村さんは約6年前から毎年田植え体験を企画し、SNS上で参加を呼びかけ、町外からも多くの人が訪れています。植える品種は「亀の尾」という、現在市場に流通する品種の祖先にあたるものです。亀の尾は栽培が難しく、農薬や化学肥料が存在しない時代の米であるため、宮村さんもその時代のやり方に合わせて栽培をしています。

宮村さんは関東からUターンをして新規就農しましたが、ある日、畑に農薬を散布している時に頭痛を感じ、これはまずい(体に悪い)と思い、翌日から一部無農薬に切り替え、翌年には化学肥料もやめたそうです。「最初は農薬は悪だ、無農薬が良いんだ」と尖っていました。でもたくさん農家さんと会って話すうちにそうじゃないと気付くことができ、今思うと恥ずかしい。でもあの時があつたからこそ今の自分がいます。

今は何でも便利な時代で、農業もほとんど機械化しています。でもだからこそ、便利が当たり前じゃ無いということや、実際に裸足で田んぼの泥に入って苗を持って、自然を五感で感じながら田植えをするという体験をしてほしい。子どもは田植えに飽きて、そのうち他の子と一緒に虫取りや泥遊びを始めます。汚しても怒られない日なので、思いきり全身泥だらけになります(笑)。親御さんも子どももの新しい一面を見て発見がたくさんあつた、と話してくれますよ。」

そう話してくれた宮村さんの表情は朗らかでとても自然体でした。この町に訪れる人が笑顔になってくれる、そんな体験を提供し続ける宮村さんに、今後も注目していきたいと思えます。

に悪い)と思い、翌日から一部無農薬に切り替え、翌年には化学肥料もやめたそうです。

「最初は農薬は悪だ、無農薬が良いんだ」と尖っていました。でもたくさん農家さんと会って話すうちにそうじゃないと気付くことができ、今思うと恥ずかしい。でもあの時があつたからこそ今の自分がいます。

今は何でも便利な時代で、農業もほとんど機械化しています。でもだからこそ、便利が当たり前じゃ無いということや、実際に裸足で田んぼの泥に入って苗を持って、自然を五感で感じながら田植えをするという体験をしてほしい。子どもは田植えに飽きて、そのうち他の子と一緒に虫取りや泥遊びを始めます。汚しても怒られない日なので、思いきり全身泥だらけになります(笑)。親御さんも子どももの新しい一面を見て発見がたくさんあつた、と話してくれますよ。」

そう話してくれた宮村さんの表情は朗らかでとても自然体でした。この町に訪れる人が笑顔になってくれる、そんな体験を提供し続ける宮村さんに、今後も注目していきたいと思えます。



田んぼの周りで遊ぶ子どもたち

# 春と人

コンシェルジュレポート

レポート (令和4年春)  
木村知子 神奈川県出身  
田子町定住移住コンシェルジュ  
(田子町地域おこし協力隊)